

第11章 神のみことば（聖書）の本棚

幼児教育（幼稚園）の現場に携わっていて感じることは、カリキュラムの中に年間を通して、年齢と発達に応じて提供される教材が準備されていることです。宗教教育においても、しっかりと準備された教材があることは、一層効果をもたらすことと思います。ここでは、前章に続いて神のみことばが書かれた本について考えてみましょう。

○年齢 初聖体

○教材

- ・本棚の箱 巾5cm、横38cm、高27cm、板厚1mm（写真A）
- ・聖書の積木 巾1cm高、色数字（アラビア）（ローマ）名前
- ・ケント紙に聖書の積木と同じ寸法のポスター（写真B（次ページ））
- ・本棚の箱の背に聖書の名前の書かれていないポスター（写真C）

○教材の提供

聖書の積木の色、大きさ、数字、名前など、年齢に応じて区別させる。

聖書の積木を混ぜてからグループわけして上段、下段（旧約聖書、新約聖書、手紙など）にはめ込んでいく。

○子供の仕事

先生の模範のはめ込みをよく見てから色グループ、数字グループ、聖書の名前に発展して、聖書の積木をポスターで何回か繰り返してから、聖書の本棚へはめ込んでいく。

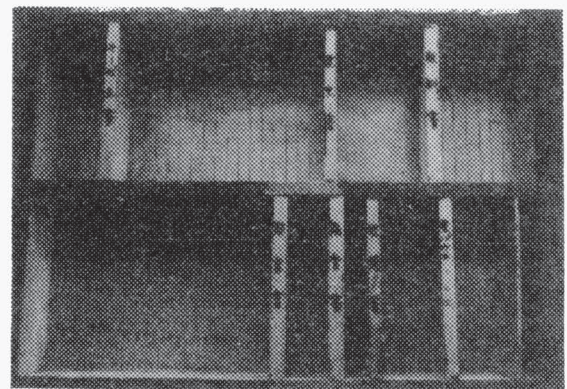
○ねらい

神のみことばの本が順序よく並べられ、神の国の歴史が完成に向かって進められていること。

（注）ペトロの手紙1・2、ヨハネの手紙1・2・3、の積木は各一つにする。



写真A



写真C

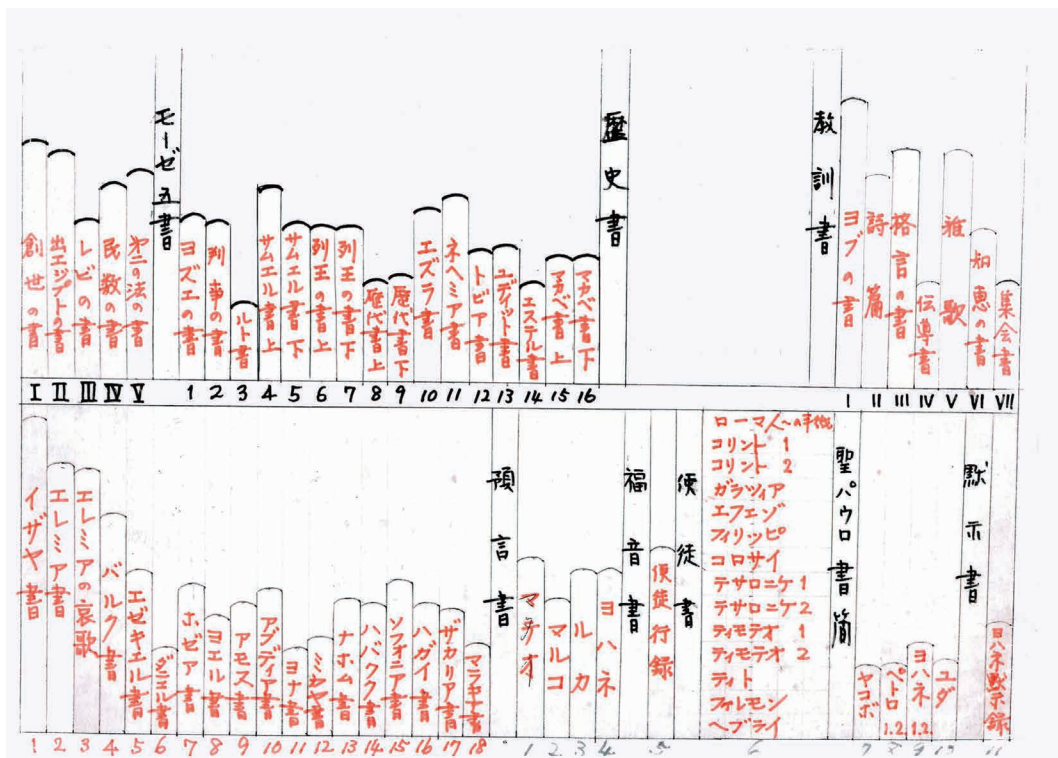


写真 B

前章に続いて、聖書についての小冊子を書く。

- (7) モーゼ五書についてヘブライ人は他の収集もしました。王様たちの手紙や書類などの記録、そして時代の出来事を歴史の本として保存しました。彼らは、その歴史の出来事の中に民を繁栄へと導く神のみわざをみだし、それらの本で感謝と賛美の祈りを捧げました。預言者たちは神の霊にみたまされ、彼らの社会に示された神のみことばを伝導し、しっかりと保存しました。それらは何世紀もの時代を経て、私たちの時代にも伝えられました。
- (8) ヘブライ人の学校では、賢者たちが（私たちが詩編と呼んでいる）世界のの神秘の思いを伝えました。ヘブライ人たかも、キリスト教徒たちも、この詩編の本の中に収録されている神の神秘について黙想し、折り続けてきました。
- (9) シナゴグ（会堂）で聖書が保存されている場所は「聖書のひつ」と呼ばれ、その前には常にランプがともされ、人々は、その前で身をかがめました。シナゴグでは、今でも古い習慣に従って皮の巻物に手で書いた聖書を読みます。
- (10) エルサレムの神殿とシナゴグの他にラビの学校で、聖書は常に深く研究するための材料になりました。彼らは次の時代に伝えるために専念しました。私たちは彼らの研究によって著かれた本が修道院という場所にたくさん保存されていることを知っています。
- (11) 私たちはおよそ2千年昔、パレスチナでナザレのイエスがシナゴグや広場で説教し、教えたことを知っています。けれども彼は、直接書いたものは残しませんでした。しかし彼には、彼の教えとみことばによるわざを見た弟子たちがいました。弟子たちはイエスの教えと、みことばを彼が死んで復活した後、思いだしながら繰り返し説教しました。

このようにして福音書が生まれました。イエスが教え、行われたみわざについてひとつひとつ全部書くとなると全世界さえたりなくなるといわれます。福音書はギリシヤ語に訳されました。（次の章に続く）